

万引対策百般 TOKYO立ち余話(3)

今こそ、Web教育+3人文殊で豊かな人間形成を目指す



NPO法人 全国万引犯罪防止機構

公園の桜は、人知れず咲く深山の一本桜のように、力を尽くし例年より長く咲いていた。揺ら揺らと舞う花びら、鶯の谷渡、通りすがりにスマホ片手にそれらを愛おむ人、光に包まれた3つのコントラストが印象派の絵画のようであった。

政府は、2月25日に新型コロナウイルス感染症対策の基本方針を発表し、さらに4月7日に緊急事態宣言を発出した。それを呼ぶ心のかように、責任ある組織は、20年間進まなかったWeb会議・スクールとテレワークを本格的に導入した。

一方、危機感と責任感が欠如している組織は、社員を出社させ、あらたなテクノロジー導入に不寛容であった。管理者の注意義務という意味において、社員に不急の出社をさせている企業と最後まで営業を続けたパンコ店は、五十歩百歩だったような気がする。

5月2日朝のTV討論会で、大新聞の論説委員が「9月入学は20年間議論してきたことであり、急いで決める必要がない」と真顔で話していた。「急いで結論を出す必要を無い」と結論を出す必要は無い」という意見は、メディアや弁護士がよく使う言葉である。その言葉が出た時は注意が必要だ。その参考例として、現在の日本では「倫理や

道徳規範に正解はない」という意見が広く流通している。実際、小学校の学習指導要領の解説※にも「学校生活を送る上では、例えば、相反する道徳的価値について、どちらか一方の選択を求める場面も数多く存在する。その場合の多くは、答えは一つでなくて正解は存在しない」と説明されている。

しかし、多くの場合、我々は権限をもって、事を決めなければならぬ。「権限をもって」というと、すごい力を持っているイメージがあるが、実はそうではない。「権」は重りからパワーの意味に転じた言葉であり「限」は限りがあること、範囲をあらわす言葉である。つまり「権限」とは権力の及ぶ範囲が限定されているという意味である。絶対的なパワーや答えをもって、決めるのなら、権限という言葉を使う必要はない。悩みながら、試行錯誤しながら、決めるときに権限が用いられる。

そして、今、児童・生徒たちへの教育の方向性について、国・自治体・学校・保護者は、広く英知(児童・生徒たちを含む)を集め、権限と注意義務をもって決める時が来ている。確かに、現時点で正解は無いかもしれない。だからこそ、あるところまでやってみないと答えはでない。その

判断する。外に出してみることで初めて学習の程度が判明すると考えよ。■即時確認の原理 学習者の反応の正否をすぐ知らせる。学習者は、自分の反応が正しかったかどうかを知った上で、次の反応を要求されるようにせよ。

■自己ペースの原理 学習者個々が自分のペースで学習を進められるようにする。適当なスピードは学習者それぞれによって異なることを考えよ。

■学習者検証の原理 プログラムの良し悪しは、専門家判断するのではなく、実際に学習が成立したかどうかで判断する。そのためには、未学習の協力者に開発中のプログラムを試用してもらい、必要に応じて改善せよ。

判断する。外に出してみることで初めて学習の程度が判明すると考えよ。■即時確認の原理 学習者の反応の正否をすぐ知らせる。学習者は、自分の反応が正しかったかどうかを知った上で、次の反応を要求されるようにせよ。

■自己ペースの原理 学習者個々が自分のペースで学習を進められるようにする。適当なスピードは学習者それぞれによって異なることを考えよ。

■学習者検証の原理 プログラムの良し悪しは、専門家判断するのではなく、実際に学習が成立したかどうかで判断する。そのためには、未学習の協力者に開発中のプログラムを試用してもらい、必要に応じて改善せよ。

私には昭和45年「プログラム学習」の実験校に入学した。プログラム学習は、リコーのマイティチャーを使って、個別学習をした。当時はPCもスマホも無かった時代である。私は未来的な学習機器の虜になった。ちなみにマイティチャーと学工業(現在のリコー)が発売した磁気シートを用いた録音再生機「シンクロファクス」を学習用機材として使った際の名称である。

当時の校舎には、視聴覚室があり、全面には大型TVやOHPやオートスライドがあり、各座席にはスイッチがあり、教壇には自動集計機器(プリンター付き)や電子解答表示盤があった。授業には全国の教育関係者が



勉強がスキになるのも、クラブになるのも、やがてキッカケが大切です。リコーマイティチャーE-200 ¥63,000

息調べで県の科学賞をいただいた。今まで確認されていなかった場所での幻の蝶の発見があった等の理由で金賞だった。じっくり仰天! プログラム学習を効率的に進めることで、空いた時間を有効に活用し、大切なものを子供の身体にメモリーした。

リート(政治家・官僚)を生み出し、今回のようなコロナ禍のような困難に対しては百書となるだけである。

プログラム学習の3人チーム制度の実験のあと、社会的・科学的統計的学習、職場体験学習、総合学習などの社会と接点を密にする生きた教育

野山を地図とコンパスでゴールを目指すオリエンテーリングは、1人よりも3人チームでやった方が面白い。同様にプログラム学習は、3人チームの方が多少時間を要するが情操教育につながると思う。多様性が進む中で、そのメリットを享受し(デメリット(意見の対立など)への配慮に積極的に目を向ける力を養う必要がある。そのためには人との関りを重視した学びの時に必要である。その逆に偏差値偏重教育に邁進するならば、責任を回避する独り善がりのエ

をつかさどる菩薩のことで、凡人でも三人で集まって、必死に相談すれば、文殊に劣らぬほどよい知恵が出るという意味である。逆に、その3人の責任感が弱く、聞く耳が無ければ、「小田原評定」や「船頭多くして船山に登る」になる。それらを自戒しながら、まわりの企業を見渡すと、タクシーは買い物代行、ホテルは一時隔離施設、自動車メーカーは人工呼吸器製造、客室乗務員は医療支援スタッフ、居酒屋はテイクアウトと宅配、など自社・自店・自己の保有の能力を活かし、社会的ニースの要請に雄々しく(または強き母たちのように)応え、事業の変革を開始していた。

2つの団体では、以下の対策を実施している。

JEAS

・3月25日 感染予防のためサーマル体温測定カメラを生産性向上要件対象品目追加

・4月6日 感染拡大に伴うお悔み・お見舞い・コロナ対策記事をHP上にアップ

・4月14日 カメラ安全利用推進委員会を初めてWeb会議で開催

安全利用推進委員会宛にて、各社の顔認証システムに「コロナ警備機能」(マスク未着用者のアラート検知、体温高熱検知)を付加するお願いをする

・4月22日 LP教育動画(有償)の期間限定の一般公開の検討開始

・5月1日 渋谷書店PJのWeb会議に向けての実験

先ほど説明した実験校は木造校舎だった。階段の踊り場からジャンプすると床が抜けた。こんなポロイ校舎で、しかも冬は雪が窓枠の間から吹き込むので寒い。嫌だ。と祖母に愚痴ったことがあった。祖母は私に、「あなたの校舎を建てた大工さんは、関東大震災で資材が急騰したため、学校を建築のさなかに破産されました。それでも大工さんは、校舎を建て続けました。地域の人々の支援があった、その大工さんはなんとか学校を建てることができたよ」と話してくれた。

この拙文を結ぶにあたって、大正の大工さんのこと、そして、その学び舎で昭和の先生方がプログラム学習を花咲かせたことを、現在、立派な鉄筋の学び舎で学ぶ後輩達にも伝えたいと思う。生きた歴史が、恩師の世代↓私の世代↓託す世代の3つの世代によってリレーされるために。文殊の知恵をもって困難に立ち向かうために。

※文部科学省「小学校学習指導要領解説 特別な教科「道徳編」平成27年7月、76頁 詳しくは、児玉聡著「実践・倫理学」勁草書房、9頁を参照のこと。

全国万引犯罪防止機構(通称・マンボウ) 万引撲滅のための戦略を本気で提言・実践する小売業界を中心に組織化されたNPO法人

文・事務局(稲本義範)